
とある頭脳派の鬼畜野郎　～神に選ばれし者（笑）～

ヌコさん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある頭脳派の鬼畜野郎　　く神に選ばれし者（笑）く

【Nコード】

N0730P

【作者名】

又コさん

【あらすじ】

大変な変態が学園都市に転生。

メインのリリカル小説がどん詰まりなので息抜きで書いてみました。痛すぎるのもうやめて！！というときはご一報ください。すぐさま削除しますww

変態プロファイリング その1

変態プロファイリング その1 真性変態

神「暇だな〜。」

ここは所謂天界。そして、六畳間に暇人…もとい暇神が一柱。

神「適当にファンフィクションでも読み漁るか。」

数時間後…。

神「これだ！！私の望んでいたものは！！」

神は一大決心をしたようだ。

神「そうだ！！小説家になろう！！」

数日後…。

神「無理だ。何も浮かんでこない。」

一大決心もろくも打ち碎かれる…。

神「いや待てよ！！」

否、神はまだあきらめていなかった！！

神「私が物語を作らなくてもいいのだ。誰かに作らせればいい！！」

他力本願。

神「神の力を行使してやらせるのだから私の力だ。」

ツツコミ自重。しかも言ってることは最低である。

神「ということであなたは選ばれました。藤田君。」

????「藤田って誰だよ？」

神「あれ？藤田じゃなかったっけ？」

王雅「荒瀧だ。アラタキオウガ荒瀧王雅。」

神「あれそうだったっけ？」

王雅「それになんて呼ばれたのかもよく分かん。」

神「あなたは死にました。」

王雅「いや確かにあの時は死んだな〜とか思ったけどさ。刺されたし。でもなんで俺を呼んだのかわかん。」

神「簡単にいえばおめでとう君が主人公だ。ってことだな。」

王雅「はい？」

神「いやゝはっちゃけた奴いなかゝとか思ってる時ちようどいい具合に死んでくれてさゝ。ぶっちゃけ助かつちやいました。」

王雅「わけ分かん。」

神「主人公ははっちゃけてないときゝ。君の経歴見て欲しくなっちゃったのさ。ちなみにこんな感じ。」

氏名 荒瀧 王雅

年齢 享年22歳

趣味・特技 喧嘩、勉強、深夜徘徊

略歴

ごく普通の一般家庭に生まれる。もの覚えがよくそこそこ勉強はできた。小学校5年生のときにむかつく奴がいたので殴って黙らせた。もともと友達はいなかったが誰も彼に近寄ろうとしなくなった。しかし中学生になると、一部のバカは彼にちよくちよく喧嘩を売って乱闘騒ぎを起こしていた。彼は常勝だったが、勝ってしまうが故に周りの目はさらに厳しくなっていた。中学卒業までさまざまな問題行動を起こし続ける。卒業後、その素行の悪さから進学先が限定され近辺の学校の中でも最も悪名高い馬鹿野郎の巣窟に進学。周囲のあまりの馬鹿さ加減にとにかく関わりたくないと思いひたすら勉強し続ける。高校生活の100パーセントを勉強に注いだ成果が名門大学の理工学科に進学。大学院に進んだ後に発表した論文が世界的に認められ理工学における権威となる。その後、教授に就任。しばらくは真面目に教鞭を振るっていいたがそのうちその権力を使い生徒にセクハラするようになる。悪名が広まり生徒から敬遠され始めたころレ〇プした生徒に刺されて死亡。

神「まったくアホらしい人生ですな。」

王雅「我ながら普通なことなど何処にもない人生だったと思う。」

神「で？私の頼みを聞いてくれるのかな？」

王雅「まあいいだろう。短い人生だった。もう少し生きてみてほしい。」

神の計画は順調だった。

神「おお！それじゃあさつそく」

王雅「だが、その前に！！」

しかし、神は重大なミスを犯していた。

神「おゝなんだチートな能力でも欲しいのか？いくらでもくれてやるぞ。」

それは、

王雅「そんなことよりもお前イケメンだな。」

神「はい？」

彼の資料の最重要事項を見ていなかったことだった。

王雅「やらないか？」

神「え？ちよ！あ！ま！」「アッ――――！！！」

最重要事項

性癖

バイセクシャル（二刀流）

女性・大きくても小さくても正義。

男性・ガチムチよりもホソマツチヨを好む傾向あり。イケメンならとりあえずよし。

小説を書くために神が失った代償はかなり大きかった。

デデデデッ
デデデ〜〜

神は新しい何かに目覚めた。

神「それじゃあ本題に入ろうか？」

王雅「いいだろう。それなりに満足した。」

ということとで簡単に転生する世界について説明をする神。

その他金銭面、生活空間の保障。 e t c . e t c .

王雅「なるほど。確かにこのままいつでも数日でこっちに逆戻りしそつだな。」

神「そうそうだからなんか能力やんよ。」

王雅「ならとにかく身体強化してくれ。超人チックに。」

神「えゝゝゝ！もつと派手なのにしるよゝゝゝ！」

王雅「強力すぎても使い勝手が悪いし、そうゆうものは使いこなせるようになるまで時間がかかるだろ。」

神「まあそうだけど…。やっぱり修行とか定番じゃん。」

王雅「いや知らんよそんなこと。」

神「じゃあもう一個！もう一個なんか能力つけてやるから！！」

王雅「そうか……。なら」

神「応！！ド派手にぶちかませるようなのを！！」

王雅「ド派手にぶちかませるくらい絶倫にしてくれ。」

神「あ？いやそれは…。」

王雅「できないのか！！？」

神「いやできるけども…。」

王雅「なにか問題でもあるのか？」

神「まだノクターン書く勇気も技術もないぞ。」

王雅「それはお前の腕次第だ。頑張ってくれ。」

神「……もはや何も言うまい。」

王雅「強化された身体能力。絶倫パワー。そして俺の技術テクニクがあれば障害になるものなどない。」

神「確かに凄まじいテクだったが……。不覚にも私が……。いやこれ以上はやめておこう。思い出すのも恐ろしい。」

まさに神生じんせい？史上最大級のトラウマだった。

王雅「よし！！じゃあ早速イこうか？」

神「不穏なニュアンスだがまあいい。さっさと逝って来い！！」

神が叫ぶと空間が裂けて王雅が飲み込まれていった。

神「さてさてどんな力オスになることやら……。あゝケツ痛い。」

神は王雅の今後の行動と痔の心配をしていた。

変態プロファイリング その2

変態プロファイリング その2 転生その後

王雅「知らない天井だ。」

テンプレである。

王雅「なんか知らんが神に言えって言われたんだよな。」

曰く、お約束だから。

ということととりあえず荒瀧王雅は転生した。

そこは学園都市。

科学と超能力。そして学生の街 ここ大事！！

王雅「これが俺の家か…。悪くない。いいセンスだ。」

金があるので家具は自分でそろえるように言われている。

そして、所持品を確認。

- ・銀行の通帳
- ・富豪が持つてそうな見たことのない色のカード
- ・家の鍵

以上である。

王雅「とりあえず神に残高確認するように言われてるし、銀行行くか。」

ということではそべ銀行に向かったのだが、

ドンッ！！

どうしてこうなった。

強盗「おかしなまねすんなよ。お、お、お客もあんまり騒がないでくれよな。」

王雅（ずいぶん腰の低い強盗だな。なんにしても関わらないのが最善。ほとぼり冷めるまで大人しくしてるとしようか。）

一瞬の静寂。

それを打ち破ったのは強盗の死角から飛び出した少女だった。

すばやく足元まで動き、相手を転がす。

そして、倒れた相手の胸部にストンピング。

王雅（いい動きだ。だが無思慮にもほどがある。銀行強盗が単独犯とは考えにくい。）

少女2「ひゃあー！！」

王雅（案の定か。）

強盗2「アホか。なにガキに伸されてんだよ。使えねえ。」

王雅（まったくだ。しかし、幼女を盾に取るとは生簀かねえ野郎だ。）

幼女1「初春！！」

王雅（おやおや。お知り合いですか幼女さん？最悪だな。犯人もこれ好機とばかりに調子に乗り出した。）

シリシリシリッ！！！！

突然鳴り出す警報。落ちるシャッター。

王雅（おいおい。何し腐ってんのここの職員！！顔晒してる強盗閉じ込めてわざわざ刺激する意味が分からん。はあゝ。日和見作戦失敗ですか？）

セキュリティロボが動き出して、犯人に警告を発する。

王雅（警告通りに武器捨てたら見逃してくれんのかな？）

などくだらないことを考えていると

ロボに合わせて先ほどの幼女が突貫する。

王雅（ん？ポケットになんかあるのか？）

犯人がポケットに手を入れているのを見て不思議に思っていると

次の瞬間、ロボが爆発、分解する。

後ろに追隨していた少女は近くにいた女性（おそらく仲間）に助けられていたが、助けた女性は頭から血を流していた。

すると犯人はおもむろに少女に近づくと、

思いつき顔面に蹴りをくれた。

王雅（ケッタ。ヨウジヨノ、ガンメンヲ、ケッタ？）

強盗2「あの馬鹿みてえに俺もやれると思ったのかよ。」

そして、今度は足を踏みつけた。

王雅（フンダ。）

少女1「くっああっあ！！」

小さく悲鳴を上げる少女。

それでも少女はあきらめない。

手を伸ばす。

今度はその手を踏みつけられる。

少女1「くあああああ！！」

王雅（マタフンダ。）

王雅の怒りのボルテージが上がっていく。

幼女1「必ず…。」

王雅（???）

幼女が何かつぶやいていてその手は確かに人質になった友人に届いていた。

幼女1「助けて見せますの。」

王雅（この女！…まだ！！）

すると次の瞬間、人質の姿が消える。

強盗2「な！？テレポートだ？ふざけやがって。」

幼女2改め初春「白井さん！！早く外へ！！」

幼女1改め白井「そうしたいのですけど、私まだ自分を飛ばせませんの。」

王雅（自己犠牲…か。たいした覚悟だ。）

白井「それにまだ事件を解決していませんもの。」

王雅（なにこの子？かつこいいんだけど…。）

強盗2「お前がなに考えてるか当ててやろうか？」

白井「え？」

強盗2「警報が鳴って大分たつ、そろそろ警備員アンチスキルも来る。人質をとられないようにこいつを足止めできればこちらの勝ち。凶星だろ？」

白井が悔しそうな表情をする。

強盗2「だがなここから出れないと決まったわけじゃないんだぜ。」

そう言つと強盗は鉄球をシャッターに向かって投げる。

その鉄球は不自然な軌道で直進し、シャッターを打ち抜いた。

犯人曰くそれが自分の能力で、自分が投げたものはそれが壊れるか、

能力を解除するまで前に何があつても進み続けるそうだ。

強盗2「ちっ！時間がねえな。おい！お前の能力で金を取り出せ！俺を手伝えば全員解放してやる。」

それに続けて白井に自分と組まないかと勧誘しているが、

白井はなにやら思案しているようだ。

白井「そうですね。私、ぜえ〜ったいにお断りですの。仲間になる？あいにくと郵便局なんか狙うチンケなこそ泥はタイプじゃありません。

せんの。それに私…もう心に決めていますの！！自分の信じた正義は決して曲げないと！！」

王雅「見事だ。」

強盗2「なんだ？まだ仲間がいたのか？」

王雅「おい。」

強盗2「あん？」

王雅「アンタを殺して俺も死ぬ！！」

犯人に向かって駆け出す。

強盗2「一人で死んでろ！！」

犯人が鉄球を投げってくるが、かまわず突っ込む。

鉄球の当たった箇所には激痛が走る。

しかし、先に砕けたのは犯人の投げた鉄球だった。

強盗2「何！！？」

王雅「いつてえなこのくそ野郎が！！」

そのままの勢いでボディブローを叩き込む。

強烈な一撃を受けた犯人は吐血して昏倒した。

王雅「ふう。大丈夫か？」

白井「……は、はい。大丈夫ですの。」

王雅「ほら。つかまりな。」

白井に向かって手を伸ばす。

次の瞬間、横っ面から凄まじい圧力を感じた。

王雅（これは！！電撃！！？）

勢いよく吹き飛ばされ壁に叩きつけられて王雅は気絶した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0730p/>

とある頭脳派の鬼畜野郎　～神に選ばれし者（笑）～

2010年12月2日01時54分発行